一般質問

一般質問は、議案に関係なく、市政全般にわたって市長や教育委員長などに質問することで、議案に対し不明な点を明らかにする質疑とは区別され、見解なども問うことができます。

中心市街地のまちづくりを問う

大塚信彰（自由民主党）

問　小田急線町田駅の開かずの踏切の解消策は。

市長　第一踏切の立体化、小田急町田駅の西側部分の駅前広場の確保も将来の課題として考えていくべき問題とは思っていますが、まだ具体的に何から進めようというところまで至っていません。バリアフリーという考え方も含めて今後の課題としたい。

問　来年、開通予定の三・四・一一号線の利用方法と延伸の見通しは。

市長　延伸については、粘り強く都にお願いをしたいと思っています。

牧田助役　地元の方々と一緒になって、道路のモール化、ゆとりを持ったまちづくりということで、取り組みをしているところです。

問　ＪＲ町田駅南口の環境浄化の推進に、どう取り組むつもりか。

市長　相模原市と意見の疎通を行い、地域の活動にも可能な限りかかわりを持って対応したいと考えています。

問　消防団員の確保に向けて、市内にある大学の学生にも入団資格を広げることは、できませんか。

市長　消防団の中に団員確保についての研究会がつくられていますから、その中で、検討していただきたい。

来年開通予定の３・４・11号線（原町田６丁目）

公共工事は市内業者を最優先に

長村敏明（自由民主党）

問　市内業者への発注が、近隣自治体と比較すると少ない。市内業者最優先で指名、発注すべきではないか。

市長　現行法制下の中で、可能な限り地元に発注の機会を確保していきたいということで、これからも対応したいと思います。

問　市内業者限定公募入札制度の確立と、最低制限価格、予定価格の範囲の大幅見直しを求める。

高山助役　制限価格の問題ですけれども、地方自治法の中に一〇分の八から三分の二という規定がされているわけで、一年間の試行を見ながら今後検討したい。

問　設備関連業者、小規模業者は、分離発注、随意契約を強く望んでいる。市長の考え方と今後の方向性を問う。

市長　分離発注等については、現在も可能な限り分離発注をしています。

問　インターネット入札を導入して、公正、公平な入札制度の確立を。

高山助役　横須賀市は国に先駆けて、公平、透明、競争性を大前提に出す制度に変わってきています。町田市の中でも業者が自力をつけて競争していく、これが前提にあるわけで、今、契約担当で調査し議論している段階です。

バリアフリーと国保税について

高嶋　均（日本共産党）

問　バリアフリー法による基本構想の策定については、どのような方針で望むのか。

高山助役　推進検討委員会からの答申の中にも計画素案という形で提案しています。いろいろな計画を持っており、早い機会にできるように思っています。

問　街づくり推進検討委員会による意見具申の提案を受けて、早急に実施すべき具体的対応策は。

市長　高齢者、障害者も、普通の人と同じように利用できるまちづくりを進めたいと考えています。

問　国民健康保険税の七月納期を前に資格証明書の発行が行われるが、市民に負担の資格証明書の発行は、中止すべきと考えるが。

市民部長　資格証明書の対象者ですが、滞納者は四、五〇〇世帯ぐらいいますが、一遍にやることは大変ですから五年間支払いのない人、金額の高額な人を対象に、順次広げていきたい。

問　国民健康保険税に減免要綱があるが、使わせない指導があるのではないか。

市民部長　相談をいただきながら減免措置を考えています。その他、分納だとか、必要なら生活保護の指導をしています。

小田急線町田駅のエレベーター

公正で民主的な教科書採択を

細野龍子（日本共産党）

問　子どもたちの発達や興味・関心、地域性に則した教科書を採択するため、多くの現場の教諭の声を反映させるべきだが、どうか。

教育長　調査研究委員会においては、校長、教頭、教員が調査研究に当たりますし、各学校からも実際に活用する教員の立場からの調査結果が出されます。こうした中で教員の声は十分生かされていると考えています。

問　憲法を否定し、真実をゆがめる「つくる会」の教科書は、町田の子どもにふさわしくないが、どう考えるか。

教育長　すべての候補本に関する所見を盛り込んだ答申を参考に、最終的には教育委員会がみずからの責任と権限において最も適した教科用図書の採択を行っていきたい。

問　切実な地域要望であるミニバス運行の早期実施を。また、現行運行中の市街地循環バスの増便や障害者割引の適用など、改善をすべきだがどうか。

市長　現在、運行しているコミュニティバスで障害者についての扱いは検討してみたい。高齢社会に向かって市民の足をどう守るかと言うことは市政にとって重要な課題だと思っており、なお検討を続けてみたいと思います。

保育園充実で待機児童の解消を

田中修一（社・民・生ネ）

問　待機児童の解消に向けて、保育園の増設、新設など今後の計画はどうなっているか。

健康福祉部長　待機児解消については、町田市子育て・子育ち支援計画の緊急課題として、二〇〇二年度までに五三〇人の受け入れ増加を図ることで対応し始めました。

問　南町田地域は待機児童の割合が高いが、保育園の充実についてどう対応する考えか。

健康福祉部長　今後は田園都市線周辺の地域に保育園の設置も必要かと考えていますが、用地の関係等で大変厳しいと理解しています。

問　新たな考え方として幼稚園と保育園の一元化について市長はどう考えるか。

市長　大きくは国の制度としてやっていかなければいけない問題ですが、実情が少しずつ両者の垣根を取り払わざるを得ない状況に進みつつあると認識しています。

問　山形県川西町に町田の小学生が山村留学しているが、さらに充実させる考えは。

教育長　これからも山村留学協力会とか、川西町の教育委員会と連絡をとり合って応援をしていきたいと考えています。